

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

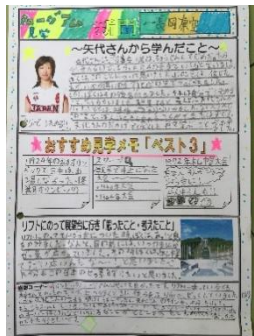
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	札幌市立真駒内公園小学校 第4学年 67名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・オリンピックをテーマに調べることを通し、オリンピックへの興味をもつ。 ・オリンピックミュージアム見学を通し、オリンピックの歴史や意義について学ぶ。 ・オリンピックに参加した選手の話から学び、学んだことを自らの生活で生かそうとする。
5 取組内容	○指導計画【22 時間扱い】 ・オリンピックについて知っていることを交流したり、オリンピッククイズを出したりし、オリンピックへの興味を高める。【2時間】 ・オリンピックをテーマに調べたことを、プレゼンテーションソフトを使って発表する【10時間】⇒（調べる）：4時間 （まとめる）4時間 （発表する）：2時間 ・オリンピックミュージアム見学の計画を立てる【2時間】 ・オリンピックミュージアム見学に行く【4時間】 ・オリンピックミュージアム見学から学んだことを新聞にまとめる【4時間】 ○取組の様子 単元の初めに、各自でオリンピックをテーマに調べる課題を設定し、プレゼンテーションソフトを使って発表した。「オリンピックの歴史」や「メダルの獲得数」などについて調べていた。アテネ五輪、女子バスケットボール代表である矢代直美さんのお話を聞いた。自身がもともと運動がそれほど得意でなかったことから、「何事もまずは、やってみることが大切」というメッセージを伝えていただき、子どもたちは、うなずきながら聞いていた。



	オリンピックミュージアムでは、冬季スポーツを体験的に学んだ。クロスカントリー、スキージャンプ、ボブスレーなど、充実した施設を利用し、子どもは、笑顔いっぱい楽しみながら学ぶことができた。 体験的な学習とともに、解説員の方から、札幌五輪や冬季五輪の歴史について話していただいた。昔と今の競技や用具の違いを分かりやすく伝えていただき、子どもは真剣にメモをとり、理解を深めていった。 まとめの学習として、ミュージアム見学から学んだことを新聞づくりに取り組んだ「矢代さんから学んだこと」「見学を通して勉強になったこと」などを、それぞれが記事にまとめた。学習全体を通し、札幌とオリンピックのつながりや、オリンピックの意義、スポーツの魅力について感じることができた。
	  
6 主な成果	• オリンピックについて各自が調べ、発表することを通し、オリンピックについての知識が増えるとともに、興味も高まっていった。 • 子どもたちが住む真駒内がオリンピックと深く関連付いた地域であることを知り、地域への愛着が増した。 • オリンピック選手である矢代さんのお話を聞くことを通し、「何事も、まずはやってみること」や「失敗しても続けることに価値があること」などを学び、生活場面で生かそうとする姿勢が見られた。
7 実践において工夫した点	• 子どもたちが住む真駒内が、札幌オリンピックと関連が強いことを生かし、身近な施設がオリンピックで活用されていたことを伝え、学習への興味を高めた。 • ミュージアム見学前に、オリンピックをテーマに調べ学習を設定することで、興味をもって見学できるようにした。
8 主な課題等	• オリンピックをテーマに調べる際、インターネットを活用したが、子どもたちの中には、適切に情報を収集することが難しい子がいて、工夫の必要性を感じた。
9 今後の取組について	• 真駒内が札幌オリンピックと深く関わりがある利点を生かし、単にオリンピックという視点からだけではなく、地域の歴史という視点からも単元を構成していきたい。